

## <センター等>

別紙2

### 全学内部質保証委員会の意見書

I 対象となるセンター等  
高等教育推進センター

II 自己点検、外部評価実施時期  
自己点検・評価実施時期

平成28年度から令和4年度の対象期間に対する自己点検を令和5年10月から12月に実施

#### III 評価結果

1. 今回の自己点検・評価は適切に実施されたか

**適切である**

現行のシステムや機能に関し、きめ細やかに自己点検評価が行われている。

2. 外部評価は適切に実施されたか（外部評価を実施している場合）

**対象外**

3. センター等の設置目的等や活動は本学及びセンター等の目的・目標等に沿ったものであるか

**適切である**

中期目標中期計画や本学のビジョンを踏まえた活動になっている。

4. 設置目的等を達成する上で、組織、設備、財務等は適切か

**おおむね適切である**

現行の活動を維持していくためには、それ見合った人員配置等に関して検討していく必要性が出てこよう。しかし、一方で人員の増強は非常に厳しいことが予想される。各部局から兼務者を募る等の新たな工夫が必要となろう。

5. 活動は本学及びセンター等の目的・目標等の達成に十分に資しているか

**おおむね資している**

中期目標・中期計画や本学のビジョンに直結する活動をしなければならない本センターであるだけに、成果を顕在化させるためには、全部局の協力がなければ実現できない。その点からみると、設置目的は公表されているが、本学構成員に十分理解されているかは不明（アンケート等の実施はあるか）である。また公表方法等の随時改善（8頁、43頁）の例示が必要かもしれない。

6. 活動によって人材育成が図られているか

**該当なし**

7. 内部質保証体制が適切に整備され、機能しているか  
**機能している**

8. 外部評価における意見への対応（自己点検・評価での課題への対応）は適切か  
**適切である**

9. その他、特記すべき点・改善を要する点等

（1）特筆すべき点

- センターが中心となってアクティブ・ラーニング（AL）の割合の増加に努めた。このことが国立大学法人評価委員会から「教育に関する目標」について「中期目標を上回る成果が得られている」と高く評価されている。
- 新たに設置された教学 IR 部門では、「在学生調査」を導入・実施し、結果の分析を行い公表しており順当に活動を開始できた。
- 特命教員の採用により、専任教員と連携し、社会貢献等を含めた多岐の活動内容となっている。

（2）改善を要する点

特になし

（3）改善が望ましい点

- 「福井大学のファカルティ・ディベロップメントの基本方針（第3期）」を策定し、全学及び各部局における教育に係る FD を推進してきたことは十分評価できるが、FD は終わりが無い活動である。各部局の FD を見ると、まだ単発的な行事の感がぬぐい切れていない。各部局の FD の現状を打開するための、本センターが先駆的な役割を果たしてくれることを期待するものである。
- ホームページの掲載内容の迅速な更新を期待する

10. 上記を踏まえ、センター等の改廃についての意見

（1）専任教員の配置は妥当か

**おおむね適切である**

（2）現状どおり設置していくことは適切か

**適切である**